

【コリント人への手紙第一 14 章 15 節】 ではどうすればよいのでしょうか。  
私は霊において祈り、また知性においても祈りましょう。霊において賛美  
し、また知性においても賛美しましょう。

「もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈るが、私の知性は実を結ばないのです。」

(I コリント 14 : 15) という課題の解答が今日の聖書箇所です。

霊において祈り(異言で祈り)、知性において祈る(人の言葉で祈る)ことを勧めています。  
さらに、異言は、自動車を運転しながらでも、家事をしながらでも祈ることができるので、「絶えず祈りなさい。」(I テサロニケ 15 : 17) や「目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい。」(コロサイ 4 : 2) などの勧めの言葉を実行することが可能になります。

「異言を話す者は自分の徳を高めませんが、預言する者は教会の徳を高めます。」(I テサロニケ 14 : 4) 。異言で祈ることは(霊で祈ることは)、その人の徳を高め、信仰と霊の成長を <sup>うなが</sup> 促 します。

「誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」(マルコ 14 : 38) 。すなわち、異言の祈りには、知性においての祈りを <sup>おぎな</sup> 補 い、助けるという力があります。

「異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです。」(I コリント 14 : 2) 。異言で、私たちは直接に神に祈り、交流することができます。ですから、知性においていのり、また、霊で祈り(異言で祈り)クリスチャンとして、ともに、成長していきましょう。